

平成22年12月期 第1四半期決算短信

平成22年5月7日

上場会社名 キリンホールディングス株式会社

コード番号 2503 URL <http://www.kirinholdings.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 三宅 占二

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 小川 洋

TEL 03-5540-3455

四半期報告書提出予定日 平成22年5月14日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年12月期第1四半期の連結業績(平成22年1月1日～平成22年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第1四半期	442,772	△9.1	23,846	152.2	20,654	56.3	6,157	—
21年12月期第1四半期	487,287	—	9,454	—	13,213	—	△6,172	—
1株当たり四半期純利益			潜在株式調整後1株当たり四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
22年12月期第1四半期	6.46		6.42					
21年12月期第1四半期	△6.47		—					

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
22年12月期第1四半期	2,796,076		1,205,695		35.4		1,037.98	
21年12月期	2,861,194		1,198,869		34.3		1,029.35	

(参考) 自己資本 22年12月期第1四半期 989,449百万円 21年12月期 981,322百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
21年12月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年12月期	—	11.50	—	11.50	23.00
22年12月期 (予想)		12.50	—	12.50	25.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年12月期の連結業績予想(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 連結累計期間	1,030,000	△2.9	50,000	24.5	46,000	△18.4	10,000	△33.1	10.49
通期	2,220,000	△2.6	133,000	3.6	125,000	△13.6	48,000	△2.4	50.35

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名)) 除外 一社 (社名))
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注) 詳細は6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)
① 会計基準等の改正に伴う変更 有
② ①以外の変更 無
(注) 詳細は6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)
① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年12月期第1四半期 984,508,387株 21年12月期 984,508,387株
② 期末自己株式数 22年12月期第1四半期 31,266,455株 21年12月期 31,167,235株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年12月期第1四半期 953,264,517株 21年12月期第1四半期 954,323,994株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想に関する記述は、当社および当グループが本資料の発表日現在で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますが、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、当社および当グループの事業をとりまく経済情勢、市場動向、為替レートなどに関わる様々な要因により、記述されている業績予想とは大幅に異なる可能性があることをご承知おきください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期（平成22年1月1日～平成22年3月31日）の世界経済は、緩やかに持ち直しの動きが見られ、日本においても、自律性は弱いものの各種経済対策効果から景気が着実に持ち直しています。

このような状況の中、キリングループでは、キリングループ長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2015」（略称：KV2015）実現に向けた第2ステージである「2010-2012年キリングループ中期経営計画」初年度の順調なスタートを切り、綜合飲料グループ戦略の推進に向け、引き続き国内外で積極的な事業展開を図りました。

また、「食と健康」領域への事業集中に向け事業ポートフォリオの見直しを進め、3月には完全子会社であるキリンアグリバイオ㈱及びキリンアグリバイオイーシー社の全株式を売却しました。

これらの結果、当第1四半期の売上高は、主にライオンネイサン ナショナルフーズ社の飲料・食品事業部門を担うナショナルフーズ社の決算期変更により減少しましたが、営業利益、経常利益、四半期純利益は増加しました。

連結売上高	4,427億円（前年同期比 9.1%減）
連結営業利益	238億円（前年同期比 152.2%増）
連結経常利益	206億円（前年同期比 56.3%増）
連結第1四半期純利益	61億円（前年同期比 一）

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりです。

〈酒類事業部門〉

国内酒類事業では、キリンビール㈱が、商品戦略の3つの課題である「定番商品強化」「健康志向への対応強化」「総需要拡大」に引き続き取り組みました。その結果、主にビール・発泡酒市場が生活防衛意識の高まり等の影響を受け縮小する中、キリンビール㈱は、成長の続く新ジャンル市場の「キリン のどごし〈生〉」のさらなる拡大や「キリン 一番搾り〈生〉」の堅調等、主力商品が好調に推移しました。新たな取り組みとして、「定番商品強化」では、「キリンラガービール」の味覚とパッケージをブラッシュアップし、「健康志向への対応強化」では“糖質ゼロ”※1 “低カロリーNo.1”※2 の「キリンゼロ〈生〉」を発売、また、「総需要拡大」では、成長著しい新ジャンル市場に向けて「キリン1000（サウザン）」を発売しました。

※1 「糖質ゼロ」は100mlあたり糖質0.5g未満のものに表示可能(栄養表示基準による)

※2 発泡酒の中で“いちばん”低カロリー 当社調べ（1994年～2009年12月発売の国産発泡酒）

また、RTD※3市場では定番の「キリンチューハイ 氷結」スタンダードシリーズが好調だったほか、2月に発売した「キリン 世界のハイボール」も市場を活性化しました。

※3 RTD: Ready to drinkの略。栓を開けてそのまま飲める飲料。

ノンアルコール・ビールテイスト飲料の「キリン フリー」は、新たな飲用シーンの提案等を積極的に行うことで、2009年4月の発売以来の好調な販売を継続しました。

メルシャン㈱では、生活防衛意識の高まりから輸入ワイン等の中高級価格帯商品が影響を受ける一方、家庭用市場向けのディリーワインが好調でした。また、人気の「フロンテラ」シリーズから「フロンテラ メルローロゼ」を発売し、世界的に人気が高まるロゼワインのプロモーションを強化し好評を得ました。

海外酒類事業では、ライオンネイサン ナショナルフーズ社の酒類事業部門が、中核の豪州ビール事業における基盤ブランドの販売好調に加え、拡大が続くプレミアムカテゴリーでの成長も継続しました。

厳しい競争環境が続く中国においては、綜合飲料グループ戦略を柱として、長江デルタ・珠江デルタ・東北三省を中心に引き続き販売強化に努めました。

これらの結果、売上高、営業利益は、主にライオンネイサン ナショナルフーズ社の酒類事業部門が為替の影響を受けたこと等により増加しました。

酒類事業部門連結売上高	2,364億円 (前年同期比 5.8%増)
酒類事業部門連結営業利益	158億円 (前年同期比 15.2%増)

<飲料・食品事業部門>

国内飲料・食品事業では、清涼飲料市場全体が依然として厳しい状況にある中、キリンビバレッジ株が昨年に引き続き、「強いブランド創り」と「収益構造改革」に注力しました。主力ブランドである「キリン 午後の紅茶」では、2月に発売した「キリン 午後の紅茶 エスプレッソティー」が、仕事の合間の休憩時の選択肢として「紅茶」の新たな飲用シーンを提案し、お客様から高い支持を集めました。さらに、3月には砂糖ゼロ・脂肪ゼロを実現した「キリン 午後の紅茶 ヘルシーミルクティー」が加わり、紅茶飲料市場を活性化しました。「キリン ファイア」ブランドでは、飲みごたえのあるブラックタイプの缶コーヒー「キリン ファイア ブラック ディープボディ」を新たにラインアップに加えました。また、中国では、「キリン 午後の紅茶」の発売10年目を機に、パッケージ、味覚を刷新し、リニューアル発売する等、同社の強みを活かしたマーケティングを展開するとともに、収益構造改革に取り組みました。

キリン協和フーズ株では、価値提案型の開発・営業体制を強化し、収益性向上に向け競争力のある商品の提供に努めました。また、メルシャン株の加工用酒類事業統合に向けた経営基盤整備も順調に進みました。

海外飲料・食品事業について、ライオンネイサン ナショナルフーズ社の飲料・食品事業部門を担うナショナルフーズ社の損益は、決算期変更により、当第1四半期の当社グループの連結業績に含まれておりません。

これらの結果、主にナショナルフーズ社の決算期変更により売上高は減少しましたが、営業利益は大幅に改善しました。

飲料・食品事業部門連結売上高	955億円 (前年同期比 41.2%減)
飲料・食品事業部門連結営業利益	1億円 (前年同期比 —)

<医薬事業部門>

協和発酵キリン株は、国内の医療用医薬品では、主力製品である貧血治療剤「ネスプ」及び「エスピー」、二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「レグパラ」等が伸長しましたが、花粉飛散量が前年に比べ少なかった影響等により、抗アレルギー剤「アレロック」、抗アレルギー点眼剤「パタノール」の売上高は前年同期を下回りました。また、医薬品の技術収入が大幅に増加したほか、アジア向けの輸出も順調に推移しました。

これらの結果、売上高、営業利益ともに増加しました。

医薬事業部門連結売上高	496億円 (前年同期比 1.6%増)
医薬事業部門連結営業利益	103億円 (前年同期比 80.9%増)

さらに、2月には、がん性疼痛に対する治療剤で舌下投与錠のKW-2246の承認を申請する等、新薬の開発も進めており、また、3月には、バイオ生産技術研究所（高崎市）に世界最大クラスの組換え動物細胞の培養装置を備えた治験用抗体原薬製造設備が竣工しました。本施設の稼動により抗体医薬品の一層の開発進展が期待されます。

<その他の事業部門>

協和発酵キリン株のバイオケミカル事業では、アミノ酸・核酸関連物質を中心とする医薬・工業用原料で、アジア向けの輸液用アミノ酸や医薬用原料の販売が好調に推移しました。また、ヘルスケア製品では、通信販売リメイクシリーズの顧客数も順調に増加しています。

また、協和発酵キリン株の化学品事業では、世界的な景気後退の影響により製品需要が大きく落ち込んだ前年同期と比べ、国内外ともに需要は回復し、販売数量は前年を大きく上回りました。

これらの結果、売上高、営業利益はともに増加しました。

その他事業部門連結売上高	611億円 (前年同期比 16.4%増)
その他事業部門連結営業利益	21億円 (前年同期比 —)

また、所在地別セグメントの状況は以下のとおりです。

(日本)

酒類事業部門では、キリンビール株で「キリン のどごし生」等の主力商品が好調だった他、新たな商品提案にも積極的に取り組みました。飲料・食品事業部門では、キリンビバレッジ株が「強いブランド創り」に努めるとともに「収益構造改革」を進めました。医薬事業部門では、協和発酵キリン株で主力製品の販売が好調だった他、新たな研究所施設が稼動しました。その他の事業部門では、特に協和発酵キリン株の化学品事業の業績が大幅に改善しました。

連結売上高	3,648億円 (前年同期比 0.5%減)
連結営業利益	181億円 (前年同期比 298.3%増)

(アジア・オセアニア)

アジアでは、キリンビバレッジ株が中国等でマーケティング活動に注力し、また、豪州ではライオネイサン ナショナルフーズ社の酒類事業部門が、主力の豪州ビール事業を中心に好調な販売を維持しました。なお、同社の飲料・食品事業部門を担うナショナルフーズ社の損益は、決算期変更により、当第1四半期の当社グループの連結業績に含まれておりません。

連結売上高	608億円 (前年同期比 41.3%減)
連結営業利益	91億円 (前年同期比 21.5%増)

(その他地域)

アメリカ合衆国、ヨーロッパ諸国など、その他の地域の業績は以下のとおりです。

連結売上高	170億円 (前年同期比 1.3%増)
連結営業利益	11億円 (前年同期比 36.4%減)

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ651億円減少（対前期末比2.3%減）して2兆7,960億円となりました。流動資産は、受取手形及び売掛金の減少等により、702億円減少して7,691億円となりました。固定資産は51億円増加して2兆269億円となりました。

負債は、前連結会計年度末に比べ719億円減少（対前期末比4.3%減）して1兆5,903億円となりました。流動負債は、短期借入金及びコマーシャル・ペーパーが増加したものの、支払手形及び買掛金、未払酒税の減少等により451億円減少して7,489億円となりました。固定負債は、長期借入金の減少等により、267億円減少して8,414億円となりました。

純資産は、為替換算調整勘定の増加等により、前連結会計年度末に比べ68億円増加（対前期末比0.6%増）して1兆2,056億円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

売上債権の増減による運転資金の流入が327億円減少するなどの減少要因があつたものの、税金等調整前第1四半期純利益の増加159億円、為替差益の減少49億円、仕入債務の増減による運転資金の流出減少170億円、法人税等の支払額が27億円減少したことなどにより、営業活動による資金の収入は対前第1四半期連結累計期間比8億円増加の74億円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形・無形固定資産の取得については、前第1四半期連結累計期間より29億円多い265億円を支出しました。また子会社株式の取得により21億円を支出しました。一方、有形・無形固定資産の売却により12億円、有価証券・投資有価証券の売却により87億円の収入がありました。これらの結果、投資活動による資金の支出は対前第1四半期連結累計期間比64億円増加の197億円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

コマーシャル・ペーパーの発行による収入が399億円、長期借入れによる収入が124億円あった一方、短期借入金が131億円減少し、長期借入金の返済が102億円、配当金の支払いが131億円ありました。これらの結果、財務活動による資金の収入は対前第1四半期連結累計期間比76億円増加の142億円となりました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、対前連結会計年度末比1億円減少の1,186億円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当連結会計年度の業績見通しについては、平成22年2月10日発表の業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①簡便な会計処理

1) 一般債権の貸倒見積高の算定方法

貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度末において算定した貸倒実績率等の合理的な基準を使用して、一般債権の貸倒見積高を算定しております。

2) 棚卸資産の評価方法

四半期連結会計期間末における棚卸高の算出に関して、実地棚卸を省略し前連結会計年度に係る実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。

棚卸資産の簿価切下げに関して収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行っております。

3) 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法により算定しております。

②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、主として、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を当第1四半期連結会計期間より適用し、当第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第1四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

この変更に伴う損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(連結子会社の事業年度等に関する事項の変更)

当社は、オセアニアでの総合飲料グループ戦略をさらに推進すべく、平成21年10月にLION NATHAN LTD.（以下、LN）を完全子会社とするとともに、全てのオセアニア事業会社（National Foods Limited（以下、NFL）、LN、及びそれらの子会社）を一元的に統括するためにLion Nathan National Foods Pty Ltd（以下、LNNF）の子会社としました。また、LNNF、NFL及びその子会社の決算日（12月31日）を当連結会計年度より統一し、9月30日に変更いたしました。

当社の第1四半期連結財務諸表の作成にあたっては、決算日の差異が3ヶ月を超えないことから、LNNF、NFL及びその子会社の平成21年12月31日現在の財務諸表を使用しておりますが、平成21年10月1日から平成21年12月31日までの損益は当社の前連結会計年度の連結損益計算書に含まれていることから、当社の第1四半期連結損益計算書に含めておりません。なお、四半期連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

また、前第1四半期連結累計期間におけるLNNF、NFL及びその子会社の売上高は58,213百万円、営業損失は1,198百万円です。セグメント情報に与える影響は、「セグメント情報」に記載しております。

5. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	124,305	125,558
受取手形及び売掛金	343,727	423,835
商品及び製品	142,936	138,937
仕掛品	20,753	18,319
原材料及び貯蔵品	42,790	41,261
その他	96,577	93,815
貸倒引当金	△1,917	△2,278
流動資産合計	769,172	839,450
固定資産		
有形固定資産	774,503	774,274
無形固定資産		
のれん	609,379	605,210
その他	127,417	129,477
無形固定資産合計	736,797	734,688
投資その他の資産		
投資有価証券	390,279	388,677
その他	129,613	128,511
貸倒引当金	△4,289	△4,407
投資その他の資産合計	515,602	512,781
固定資産合計	2,026,903	2,021,743
資産合計	2,796,076	2,861,194

(単位：百万円)

当第1四半期連結会計期間末
(平成22年3月31日)前連結会計年度末に係る
要約連結貸借対照表
(平成21年12月31日)

負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	148,956	169,936
短期借入金	278,609	259,425
コマーシャル・ペーパー	39,998	—
1年内償還予定の社債	12,795	12,521
未払法人税等	12,477	22,806
引当金	13,432	9,954
その他	242,657	319,452
流動負債合計	748,926	794,096
固定負債		
社債	325,467	324,904
長期借入金	272,154	300,590
退職給付引当金	83,625	85,279
その他の引当金	5,984	6,131
その他	154,221	151,322
固定負債合計	841,453	868,228
負債合計	1,590,380	1,662,324
純資産の部		
株主資本		
資本金	102,045	102,045
資本剰余金	71,586	71,582
利益剰余金	855,732	860,538
自己株式	△30,629	△30,486
株主資本合計	998,735	1,003,680
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	21,818	18,279
繰延ヘッジ損益	1,122	△1,548
土地再評価差額金	△4,713	△4,713
為替換算調整勘定	△27,513	△34,375
評価・換算差額等合計	△9,286	△22,357
新株予約権	147	196
少数株主持分	216,098	217,350
純資産合計	1,205,695	1,198,869
負債純資産合計	2,796,076	2,861,194

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)
売上高	487,287	442,772
売上原価	301,785	265,723
売上総利益	185,502	177,048
販売費及び一般管理費	176,047	153,202
営業利益	9,454	23,846
営業外収益		
受取利息	542	333
受取配当金	1,913	347
持分法による投資利益	1,201	1,544
為替差益	5,964	—
その他	1,588	1,674
営業外収益合計	11,210	3,900
営業外費用		
支払利息	4,950	5,507
その他	2,500	1,583
営業外費用合計	7,451	7,091
経常利益	13,213	20,654
特別利益		
固定資産売却益	524	48
貸倒引当金戻入額	211	—
投資有価証券売却益	1,361	4,544
関係会社株式売却益	—	122
その他	—	615
特別利益合計	2,097	5,331
特別損失		
固定資産除却損	1,591	840
固定資産売却損	733	28
減損損失	3,793	—
投資有価証券評価損	2,471	142
投資有価証券売却損	836	2
関係会社株式売却損	—	3,801
統合関連費用	1,912	—
たな卸資産評価損	942	—
その他	—	2,149
特別損失合計	12,281	6,964
税金等調整前四半期純利益	3,029	19,021
法人税等	7,928	8,812
少数株主利益	1,274	4,051
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△6,172	6,157

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,029	19,021
減価償却費	23,206	22,283
のれん償却額	5,163	7,251
受取利息及び受取配当金	△2,455	△680
持分法による投資損益（△は益）	—	△1,544
支払利息	4,950	5,507
為替差損益（△は益）	△5,724	△728
有価証券及び投資有価証券売却益	—	△4,544
関係会社株式売却損	—	3,801
売上債権の増減額（△は増加）	109,914	77,197
たな卸資産の増減額（△は増加）	△5,965	△9,349
仕入債務の増減額（△は減少）	△35,947	△18,893
未払酒税の増減額（△は減少）	△49,002	△45,407
未払消費税等の増減額（△は減少）	△9,299	△4,452
預り金の増減額（△は減少）	—	△13,534
その他	△4,960	△4,957
小計	32,909	30,968
利息及び配当金の受取額	3,651	3,278
利息の支払額	△5,398	△4,995
法人税等の支払額	△24,576	△21,808
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,586	7,444
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△23,604	△26,572
有形及び無形固定資産の売却による収入	9,200	1,237
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△52	△308
有価証券及び投資有価証券の売却による収入	63	8,775
子会社株式の取得による支出	—	△2,139
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	2,227	89
その他	△1,125	△867
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,292	△19,784

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△36,737	△13,124
コマーシャル・ペーパーの発行による収入	75,938	39,998
長期借入れによる収入	53,574	12,404
長期借入金の返済による支出	△30,404	△10,246
社債の償還による支出	△40,000	—
少数株主への子会社減資による支出	—	△2,058
自己株式の取得による支出	△95	△152
自己株式の売却による収入	56	13
配当金の支払額	△10,975	△10,963
少数株主への配当金の支払額	△4,643	△2,169
その他	△87	598
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,624	14,299
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,148	△2,076
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	5,068	△117
現金及び現金同等物の期首残高	68,457	118,797
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	23	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	73,548	118,680

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)

	酒類 (百万円)	飲料・食品 (百万円)	医薬 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	223,493	162,417	48,851	52,525	487,287	—	487,287
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,589	1,340	260	8,088	16,278	(16,278)	—
計	230,083	163,757	49,111	60,613	503,566	(16,278)	487,287
営業利益(△は営業損失)	13,796	△3,961	5,725	△1,592	13,968	(4,514)	9,454

当第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)

	酒類 (百万円)	飲料・食品 (百万円)	医薬 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	236,429	95,552	49,645	61,144	442,772	—	442,772
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,752	1,359	29	7,866	15,007	(15,007)	—
計	242,181	96,912	49,674	69,010	457,779	(15,007)	442,772
営業利益	15,891	124	10,359	2,125	28,502	(4,655)	23,846

(注) 1 事業区分は、製品の種類、性質を考慮した経営管理上の区分によっております。

2 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
酒類	ビール、発泡酒、新ジャンル、洋酒、エンジニアリング、物流他
飲料・食品	清涼飲料、食品、健康・機能性食品他
医薬	医薬品
その他	バイオケミカル、化学品、花卉他

3 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更

当第1四半期連結累計期間

「追加情報」に記載のとおり、Lion Nathan National Foods Pty Ltd(以下、LNNF)、National Foods Limited(以下、NFL)及びその子会社の決算日(12月31日)を当連結会計年度より9月30日に変更いたしました。

当社の第1四半期連結財務諸表の作成にあたっては、決算日の差異が3ヶ月を超えないことから、LNNF、NFL及びその子会社の平成21年12月31日現在の財務諸表を使用しておりますが、平成21年10月1日から平成21年12月31日までの損益は当社の前連結会計年度の連結損益計算書に含まれていることから、当社の第1四半期連結損益計算書に含めておりません。

なお、前第1四半期連結累計期間において「飲料・食品事業」に含まれるLNNF、NFL及びその子会社の売上高は58,213百万円、営業損失は1,198百万円です。

4 連結子会社の事業区分の変更

当第1四半期連結累計期間

従来、Lion Nathan National Foods Pty Ltdは「飲料・食品事業」に含まれておりましたが、「追加情報」に記載のとおり、「酒類事業」及び「飲料・食品事業」を含む全てのオセアニア事業会社 (National Foods Limited、Lion Nathan LTD.、及びそれらの子会社) を一元的に統括する会社となったことから、当第1四半期連結会計期間より「その他事業」に事業区分を変更することといたしました。これにより、「その他事業」の営業利益が646百万円減少しております。

〔所在地別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日）

	日本 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	366,816	103,636	16,834	487,287	—	487,287
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,801	791	1,827	8,419	(8,419)	—
計	372,617	104,428	18,662	495,707	(8,419)	487,287
営業利益	4,545	7,571	1,810	13,927	(4,472)	9,454

当第1四半期連結累計期間（自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日）

	日本 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	364,851	60,865	17,054	442,772	—	442,772
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,832	1,024	2,111	10,968	(10,968)	—
計	372,684	61,890	19,165	453,740	(10,968)	442,772
営業利益	18,105	9,199	1,152	28,457	(4,610)	23,846

(注) 1 国又は地域は、地理的近接度を考慮して区分しております。

2 日本以外の区分に属する主な国又は地域

地域区分	主要な国又は地域
アジア・オセアニア	東アジア、東南アジア、オセアニア諸国
その他	アメリカ合衆国、ヨーロッパ諸国

3 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更

当第1四半期連結累計期間

「追加情報」に記載のとおり、Lion Nathan National Foods Pty Ltd (以下、LNNF)、National Foods Limited (以下、NFL) 及びその子会社の決算日 (12月31日) を当連結会計年度より9月30日に変更いたしました。

当社の第1四半期連結財務諸表の作成にあたっては、決算日の差異が3ヶ月を超えないことから、LNNF、NFL及びその子会社の平成21年12月31日現在の財務諸表を使用しておりますが、平成21年10月1日から平成21年12月31日までの損益は当社の前連結会計年度の連結損益計算書に含まれていることから、当社の第1四半期連結損益計算書に含めておりません。

なお、前第1四半期連結累計期間において「アジア・オセアニア」に含まれるLNNF、NFL及びその子会社の売上高は58,213百万円、営業損失は1,198百万円です。

〔海外売上高〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日）

	アジア・オセアニア	その他	計
I 海外売上高(百万円)	107,768	20,628	128,396
II 連結売上高(百万円)	—	—	487,287
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	22.1	4.2	26.3

当第1四半期連結累計期間（自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日）

	アジア・オセアニア	その他	計
I 海外売上高(百万円)	68,715	22,114	90,829
II 連結売上高(百万円)	—	—	442,772
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	15.5	5.0	20.5

(注) 1 国又は地域は、地理的近接度を考慮して区分しております。

2 各区分に属する主な国又は地域

地域区分	主要な国又は地域
アジア・オセアニア	東アジア、東南アジア、オセアニア諸国
その他	アメリカ合衆国、ヨーロッパ諸国

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

4 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更

当第1四半期連結累計期間

「追加情報」に記載のとおり、Lion Nathan National Foods Pty Ltd (以下、LNNF)、National Foods Limited (以下、NFL) 及びその子会社の決算日（12月31日）を当連結会計年度より9月30日に変更いたしました。

当社の第1四半期連結財務諸表の作成にあたっては、決算日の差異が3ヶ月を超えないことから、LNNF、NFL及びその子会社の平成21年12月31日現在の財務諸表を使用しておりますが、平成21年10月1日から平成21年12月31までの損益は当社の前連結会計年度の連結損益計算書に含まれていることから、当社の第1四半期連結損益計算書に含めておりません。

なお、前第1四半期連結累計期間において、LNNF、NFL及びその子会社の売上高は、「アジア・オセアニア」に57,856百万円、「その他」に104百万円含まれております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

平成22年12月期 第1四半期決算補足説明資料

1. 損益状況
2. 売上高明細
3. 主な利益増減内容（第1四半期実績）
4. 主要費用等
5. 貸借対照表の主要増減内容

（参考資料）

1. キリングループ連結財務指標ガイド
2. 主な連結会社別損益
3. 酒類売上明細（キリンビール）
4. 清涼飲料売上明細（キリンビバレッジグループ）
5. 主要医薬品売上高（協和発酵キリン）

キリンホールディングス株式会社
平成22年5月7日

1. 損益状況

	平成21年度				平成22年度			
	第1四半期 (実績)		通期(実績)		第1四半期 (実績)		通期(予想)	
売上高 (対前年増率)	億円 4,872	% 13.3	億円 22,784	% △1.1	億円 4,427	% △9.1	億円 22,200	% △2.6
営業利益 (対前年増率)	94	2.5	1,284	△12.0	238	152.2	1,330	3.6
経常利益 (対前年増率)	132	—	1,446	40.3	206	56.3	1,250	△13.6
当期(四半期)純利益 (対前年増率)	△61	—	491	△38.7	61	—	480	△2.4
EBITDA ※ (対前年増率)	288	△14.1	2,128	△19.6	532	84.8	2,800	31.6

※ 平成21年度第1四半期実績EBITDA = 288

営業利益94+持分法による投資利益12+減価償却費232+のれん償却額51+特別損益△101

平成21年度通期実績EBITDA = 2,128

営業利益1,284+持分法による投資利益89+減価償却費1,058+のれん償却額216+特別損益△520

平成22年度第1四半期実績EBITDA = 532

営業利益238+持分法による投資利益15+減価償却費222+のれん償却額72+特別損益△16

平成22年度通期予想EBITDA = 2,800

営業利益1,330+持分法による投資利益90+減価償却費1,100+のれん償却額330+特別損益△50

2. 売上高明細

	平成21年度				平成22年度			
	第1四半期 (実績)		通期(実績)		第1四半期 (実績)		通期(予想)	
売上高内訳 (対前年増率)	億円 4,872	% 13.3	億円 22,784	% △1.1	億円 4,427	% △9.1	億円 22,200	% △2.6
総売上高								
酒類	2,234	△9.9	10,976	△7.1	2,364	5.8	11,150	1.6
ビール・発泡酒・新ジャンル	1,833	△9.4	8,917	△7.1	1,915	4.5	9,150	2.6
その他の酒類 ※	338	△11.0	1,702	△1.8	377	11.6	1,670	△1.9
その他	62	△18.3	356	△26.3	70	12.3	330	△7.4
飲料・食品	1,624	4.2	7,350	2.6	955	△41.2	6,720	△8.6
医薬品	488	360.5	2,067	20.5	496	1.6	2,050	△0.9
その他	525	236.3	2,389	2.2	611	16.4	2,280	△4.6
バイオケミカル	183	—	794	34.4	191	4.3	710	△10.7
化学品	102	—	557	△17.0	286	179.5	1,150	106.3
その他	239	53.2	1,037	△3.5	133	△44.3	420	△59.5

※ 清涼発泡飲料を含んでおります。

3. 主な利益増減内容(第1四半期実績)

(単位:億円)

セグメント	会社名	要因	差異	内容
酒類	キリンビール	酒類限界利益増	7	ビール販売数量減 △11千kl △13億 発泡酒販売数量減 △18千kl △17億 新ジャンル販売数量増 15千kl 16億 RTD販売数量増 2千kl 3億 焼酎・洋酒限界利益減 △4億 品種構成による差異 他
		原材料コストダウン	3	砂糖・液糖価格安 3億、包装資材価格安 2億、 麦芽価格高 △2億、大麦価格高 △1億 他
		販売費増	△21	販売促進費・広告費増 △21億 (ビール・発泡酒・新ジャンル △11億、RTD △9億、 焼酎・洋酒 6億 他)
		その他費用減	13	備消耗品費減 5億、減価償却費減 2億、 マネジメントフィ等増 △8億 他
	計		2	
	ライオンネイサン ナショナルフーズ	営業利益増	49	108億 → 158億
		のれん償却額	△35	△10億 → △46億
		ブランド償却費	△3	△12億 → △16億
	計		10	
	メルシャン		4	△8億 → △3億
	その他		2	
計			20	H21年度第1四半期 137億 → H22年度第1四半期 158億
飲料・食品	キリンビバレッジ	数量差異	△29	販売数量減 △262万ケース
		コストダウン	5	原材料コストダウン 他
		容器構成差異等	△14	販売促進費売上控除 △10億 他
		販売費減	53	販売促進費・広告費減 46億 (販売促進費売上控除 10億 他)、運搬費減 8億
		その他費用増	△4	マネジメントフィ等増 △2億 他
	計		11	
	ライオンネイサン ナショナルフーズ	営業利益減	△9	9億 → 0 決算期変更による影響
		のれん償却額	16	△16億 → 0
		ブランド償却費	5	△5億 → 0
	計		11	
	その他		17	
計			40	H21年度第1四半期 △39億 → H22年度第1四半期 1億
医薬	協和発酵キリン ※		46	売上総利益増 15億 研究開発費減 19億 その他費用減 11億
計			46	H21年度第1四半期 57億 → H22年度第1四半期 103億

セグメント	要因	差異	内容
その他	協和発酵キリン バイオケミカル	0	9億 → 10億
	協和発酵キリン 化学品	42	△35億 → 6億
	その他	△6	ライオンネイサン ナショナルフーズ本社費用 他
計		37	H21年度第1四半期 △15億 → H22年度第1四半期 21億
消去又は全社		△1	H21年度第1四半期 △45億 → H22年度第1四半期 △46億
営業利益増		143	H21年度第1四半期 94億 → H22年度第1四半期 238億
営業外損益	金融収支	△23	△24億 → △48億
	持分法による投資損益	3	サンミゲル 11億 サンミゲルビール 8億 (現地持分損益 26億、投資差額償却額 △14億、 ブランド償却費 △3億) キリンアムジェン △17億 他
	為替差損益	△52	59億 → 7億(営業外収益その他に含まれる)
	その他	2	
計		△69	
経常利益増		74	H21年度第1四半期 132億 → H22年度第1四半期 206億
特別損益	投資有価証券売却益	31	
	減損損失	37	
	投資有価証券評価損	23	
	関係会社株式売却損	△38	
	統合関連費用	18	
	その他	12	
計		85	
法人税等及び 少数株主利益	法人税等	△8	
	少数株主利益	△27	
計		△36	
第1四半期純利益増		123	H21年度第1四半期 △61億 → H22年度第1四半期 61億

※ 連結財務諸表上組み替えを行っており、上記は組み替え後の金額であります。

主要な在外会社損益の為替換算レート	平成21年度第1四半期実績	平成22年度第1四半期実績
ライオンネイサン ナショナルフーズ(酒類) (オーストラリアドル) (円)	63.68	81.81
ライオンネイサン ナショナルフーズ(飲料・食品) (オーストラリアドル) (円)	62.72	—
サンミゲルビール(フィリピンペソ) (円)	—	1.93

4. 主要費用等

(単位:億円)

	平成21年度		平成22年度	
	第1四半期 (実績)	通期(実績)	第1四半期 (実績)	通期(予想)
研究開発費	137	585	116	600
減価償却費 ※1	232	1,058	222	1,100
のれん償却額 ※2	51	216	72	330
金融収支	△24	△114	△48	△175
設備投資額(支払)	236	1,102	265	1,000
キャッシュ・フロー	50	515	△1	△500
営業活動	65	1,899	74	2,100
投資活動	△132	△3,216	△197	△600
財務活動	66	1,742	142	△2,000

※1 ブランド償却費を含んでおります。

※2 投資差額償却額、営業権償却費

5. 貸借対照表の主要増減内容

(単位:億円)

	平成21年度末	平成22年度 第1四半期末	増減	内容
(資産の部)				
流動資産				
受取手形及び売掛金	4,238	3,437	△801	・前年度末が休日による減少 他
(負債の部)				
流動負債				
支払手形及び買掛金	1,699	1,489	△209	・前年度末が休日による減少 他
短期借入金	2,594	2,786	191	・長期借入金からの振替による増加 他
コマーシャル・ペーパー	—	399	399	・キリンホールディングスのCP発行による増加
未払法人税等	228	124	△103	・法人税等確定申告分納付による減少 他
その他	3,194	2,426	△767	・前年度末が休日による未払酒税の減少 他
固定負債				
長期借入金	3,005	2,721	△284	・短期借入金への振替による減少 他

参考資料

1. キリングループ連結財務指標ガイド

			平成21年度(実績)	平成22年度(予想)
定量目標	売上高(億円)	酒税抜き	19,187	18,600
	営業利益(億円)	のれん等償却前	1,577	1,750
		のれん等償却後	1,284	1,330
	営業利益率(%)	対酒税抜き・のれん等償却前	8.2	9.4
		対酒税抜き・のれん等償却後	6.7	7.2
	ROE(%)	のれん等償却前	8.3	9.5

ガイダンス	セグメント別 売上高(億円)	酒類	10,976	11,150
		飲料・食品	7,350	6,720
		医薬	2,067	2,050
		その他	2,389	2,280
	セグメント別 営業利益(億円)	酒類	1,028	1,050
		飲料・食品	70	130
		医薬	343	320
		その他	38	60
		消去又は全社	△196	△230
		売上高(億円)	酒税込み	22,784
	海外比率(%)	酒税抜き売上高	27	25
	E B I T D A(億円)		2,128	2,800
	のれん等償却額(億円)		330	※ 493
	E P S(円)	のれん等償却前	82	102
	D/Eレシオ		0.91	0.72
	総資産回転率	酒税抜き売上高	0.70	0.67

※ のれん等償却額：493 ライオンネイサン231 (ブランド償却費57、投資差額償却額162、営業権償却費11)
 キリンビバレッジ19 (投資差額償却額)
 ナショナルフーズ81 (ブランド償却費28、投資差額償却額53)
 協和発酵キリン及びキリン協和フーズ67 (投資差額償却額)
 ジェイ・ボーグ・アンド・サン18 (ブランド償却費4、投資差額償却額13)
 サンミゲルビール73 (ブランド償却費13、投資差額償却額59) 他

2. 主な連結会社別損益

平成22年度第1四半期実績

(単位 : 億円)

		売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	連結純利益
キリンビール	※ 1	1,626	58	—	—	—
マネジメントフィ等	※ 2		△25	—	—	—
	差引調整後	1,626	32	—	—	—
メルシャン		168	△6	△5	△3	△1
ライオンネイサン ナショナルフーズ	※ 3	562	151	—	—	—
ブランド償却費			△16	—	—	—
のれん償却額			△46	—	—	—
	差引調整後	562	89	—	—	—
キリンビバレッジ		737	△0	—	—	—
マネジメントフィ等	※ 2		△7	—	—	—
のれん償却額			△4	—	—	—
	差引調整後	737	△12	—	—	—
協和発酵キリン		992	115	119	60	30
のれん償却額消去			23	23	23	11
のれん償却額			△15	△15	△15	△15
	差引調整後	992	122	126	67	26
サンミゲルビール(関連会社)		271	91	78	55	* 26
持分法による投資損益	*			* 26	26	26
ブランド償却費	※ 4			△3	△3	△3
投資差額償却額	※ 4			△14	△14	△14
	差引調整後			8	8	8

※1 単社の数値であります。

※2 キリンホールディングスへのグループ経営の対価・KIRINブランドの使用対価

※3 損益の取扱期間については、7ページ「追加情報」をご覧ください。

※4 科目：持分法による投資損益

3. 酒類売上明細(キリンビール)

	平成21年度		平成22年度	
	第1四半期 (実績)	通期(実績)	第1四半期 (実績)	通期(予想)
売上数量(対前年増率)	千KL %	千KL %	千KL %	千KL %
ビール	154 △6.7	799 △7.9	143 △6.9	755 △5.6
発泡酒	155 △6.9	726 △10.4	137 △11.5	657 △9.6
新ジャンル	128 18.5	714 17.8	143 11.4	820 14.8
計	437 △0.6	2,240 △2.0	424 △3.1	2,232 △0.4
R T D	41 15.3	199 △1.9	43 4.5	198 △0.7
清涼発泡飲料	0 △9.2	51 807.1	11 1,116.6	60 17.3
売上高(対前年増率)	億円 %	億円 %	億円 %	億円 %
ビール	627 △5.6	3,298 △7.5	587 △6.4	3,120 △5.4
発泡酒	473 △5.7	2,217 △10.1	419 △11.4	2,010 △9.4
新ジャンル	336 19.7	1,874 18.1	375 11.4	2,150 14.7
計	1,438 △0.7	7,391 △3.0	1,382 △3.9	7,280 △1.5
R T D	111 14.5	541 △0.5	118 7.1	540 △0.3
焼酎・洋酒・その他	86 △17.4	522 19.7	110 28.5	510 △2.3

※ 上記売上数量、売上高には輸出分を含んでおります。

4. 清涼飲料売上明細 (キリンビバレッジグループ)

<カテゴリー別販売実績 (連結) >

清涼飲料			平成21年度 第1四半期(実績)		平成22年度 第1四半期(実績)				平成21年度 通期(実績)		(単位:万ケース)	
カテゴリー 別	茶系飲料	販売数量	構成比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	販売数量	構成比	販売数量	構成比	
		日本茶	525	13%	409	11%	△116	78%	2,475	13%	2,200	
		烏龍茶	68	1%	61	2%	△7	90%	342	2%	280	
		紅茶	801	20%	947	25%	146	118%	3,798	20%	3,860	
		計	1,394	34%	1,417	38%	23	102%	6,615	35%	6,340	
		コーヒー飲料	855	21%	788	21%	△67	92%	3,692	19%	3,800	
		果実・野菜飲料	464	12%	391	10%	△73	84%	2,312	12%	2,100	
		炭酸飲料	105	3%	123	3%	18	117%	821	4%	950	
		水	657	16%	590	16%	△67	90%	3,364	18%	3,400	
		その他	347	9%	270	7%	△77	78%	1,502	8%	1,580	
国内市場清涼飲料計			3,822	95%	3,579	95%	△243	94%	18,306	96%	18,170	
海外市場清涼飲料計			197	5%	178	5%	△19	90%	706	4%	930	
清涼飲料計			4,019	100%	3,757	100%	△262	93%	19,012	100%	19,100	

<容器別販売実績 (連結) >

清涼飲料			平成21年度 第1四半期(実績)		平成22年度 第1四半期(実績)				平成21年度 通期(実績)		(単位:万ケース)	
容器別	区分	内訳	販売数量	構成比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	販売数量	構成比	販売数量	構成比
PET容器	缶	ボトル缶を含む	1,077	27%	1,047	28%	△30	97%	4,787	25%	4,800	
	大型PET	2 L	681	17%	569	15%	△112	84%	3,368	18%	3,300	
		1.5 L、1 L、 900ml、750ml	326	8%	310	8%	△16	95%	1,553	8%	1,600	
		大型PET計	1,007	25%	879	23%	△128	87%	4,921	26%	4,900	
	小型PET	500ml	937	23%	854	23%	△83	91%	4,986	26%	5,100	
		350ml以下	363	9%	380	10%	17	105%	1,279	7%	1,300	
		小型PET計	1,300	32%	1,234	33%	△66	95%	6,265	33%	6,400	
	PET合計		2,307	57%	2,113	56%	△194	92%	11,186	59%	11,300	
	その他容器	ワンウェイ・リターナブル壜、 紙、ギフト他	438	11%	419	11%	△19	96%	2,333	12%	2,070	
海外市場清涼飲料計			197	5%	178	5%	△19	90%	706	4%	930	
清涼飲料計			4,019	100%	3,757	100%	△262	93%	19,012	100%	19,100	

5. 主要医薬品売上高（協和発酵キリン）

(単位：億円)

	平成21年度		平成22年度	
	第1四半期 (実績)	通期(実績)	第1四半期 (実績)	通期(予想)
ネスプ/エスパー	92	489	103	497
グラン/ノイアップ	32	170	33	151
コニール	50	233	48	213
アレロック	93	267	82	260
レグパラ	12	68	19	73
パタノール	44	74	35	79
トピナ	2	15	4	19

※ 実績・予想とも国内仕切価ベース（割戻金除く）の表示であります。